

**地盤環境系・産業廃棄物処理業の CSR 報告書を教材に
「CSR/ESG/SDGs を精査・評価、自分事として捉える」
CSR/ESG/SDGs 講座で持続可能な成長戦略を学ぶ教育(ESD)**

一般財団法人 地域地盤環境研究所	水野 克己
大阪大学大学院 工学研究科	乾 徹
長崎大学大学院 工学研究科	大嶺 聖
北海道大学大学院 工学研究院	北垣 亮馬
国立環境研究所 福島支部	遠藤 和人
京都大学大学院 地球環境学堂	勝見 武

1. はじめに

気候変動をはじめとした環境をめぐる危機的状況や、従来型の大量生産・大量消費・大量廃棄の国際的な動向は、社会システムや日常生活を見直し、環境、経済、社会を統合的に向上する「循環型経済でよい社会(SDGs)」へ変革していくことが不可欠な時代になっている。さらに、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の「第5次評価報告書」IPCC第5次評価報告書では、有効な温暖化対策をとらなかった場合、21世紀末(2081年～2100年)の世界の平均気温は、2.6～4.8℃上昇する可能性が高くなることが予想されており、サーキュラー・エコノミー(循環型経済)を推進しながら、国連議決2,030年SDGs17の目標達成と「2.0℃目標」達成に迫られている。

2,021年になるとCSR/ESG/SDGsを企業が積極的に取り組むようになり、2,022年からはCSR/ESG/SDGsを個人が自分事として捉えことが求められるようになった。著者らは、「2,100年温暖化2℃目標達成を訴える」プロジェクトに賛同し、土・泥や粘土と、CSR/ESG/SDGsを有機的に統合(インテグレーション)した土・泥学講座とCSR/ESG/SDGs講座用の学習教材の研究・開発を行った。本論では、CSR/ESG/SDGs講座概要とCSR/ESG/SDGsを精査・評価し、自分事として捉えるための新たな教育(ESD)を報告する。

2. CSR/ESG/SDGs を知り理解するための CSR/ESG/SDGs 講座

CSR/ESG/SDGsを意識すると「企業の社会的責任(CSR)」「環境社会企業に投資(ESG)」、「循環型経済でよい社会(SDGs)」となる。産官学連携による大学の研究がイノベーションや新事業を創出することが国・自治体や企業から注目されている。SDGsが現代の大学生世代のニーズに合っている。などの理由から、CSR/ESG/SDGsを知り、CSR/ESG/SDGsを理解することを目的に、産業廃棄物処理業界のCSR報告書を使い2019年11月大阪大学大学院教授 乾 徹氏の指導で、「地球環境概論」履修者二年生42名を対象としたCSR/ESG/SDGs講座を始めた。さらに、2021年10月長崎大学大学院教授 大嶺 聖氏の指導で、「環境修復工学」履修者二年生42名を学生を対象に、二コマの授業(360分)の授業を始めた。2022年1月までの国立大学発CSR/ESG/SDGs講座は北大、阪大、長崎大で累計7回開催した。また、そのなかの講座では、環境省 課長補佐 切川卓也氏に、「SDGsと地域循環共生圏」の表題で特別講演を依頼した。

3. CSR/ESG/SDGs 講座の概要と意義

CSR/ESG/SDGs講座では、CSR報告書と学習教材を受け取り、説明を受けた後に持ち帰り2～3日以内に指定されたキーワードに対する設問を精査・評価し、授業支援システム(CLE)でレポートを提出する。CSR報告書の表題に書かれるトップコメントメントはISO(国際標準化機構)の品質マネジメントシステムの要である。まず、環境課題への対応に関するリーダーシップを精査・評価する。また、CSR報告書から国連決議や国策のキーワードを精査し、企業活動を評価する。さらに、CSR報告書から企業の持続可能な成長戦略に必要な基礎

キーワード ダイバーシティ「多様性」、インクルージョン「一体性」、CSR報告書,ESG,SDGs, ESD,BCP

連絡先 〒658-0064 神戸市東灘区鴨子ヶ原1丁目2-22 (一般)地域地盤環境研究所 水野克己 mizuno@geor.or.jp

知識に関わるキーワードを精査し、活動を評価、レポートを提出する。

4. CSR/ESG/SDGs 講座による研修効果

学生から公開許諾を受けたレポートは、持続可能な地球のための教育・実行委員会を經由して公開される。学生のレポートを読み・研修するのは、トップ経営者と社員である。トップ経営者は学生のレポートでイノベーションや新事業創出のヒントを得ることができる。社員や協力会社はモチベーションアップにつながる。学生が客観的に企業の取り組みを精査・評価し、レポートをインターネットなどで公開することは、投資家や顧客や地域社会にさらなる信用と信頼を得ることができる。さらに、学生は、第三者の精査・評価レポートが社会貢献することを自分事(自らの問題)として SDGs4.7(貢献の理解)を体験・理解することができる。表-1 より CSR/ESG/SDGs 講座は、レポートを提出する学生、レポートを読むトップ経営者、レポートを読む社員や協力会社、レポートを読む投資家や顧客や地域社会と幅広いステイタスホルダーを対象としていることがわかる。

表-1 CSR 報告書から精査・評価するレポート概要とレポート対象者とレポートから得られる効果

CSR報告書から精査・評価するレポート概要	学習教材とレポート対象者	学習教材とレポートから得られる効果
1.トップコメントはISOの品質マネジメントシステムの要、企業のリーダーシップを精査・評価 キーワード:トップコメント	学習教材受講と、レポート作成提出学生	学生はCSR/ESG/SDGsなどの基礎知識の理解 学生は研究課題や就活先や生きる羅針盤を探す手がかり 学生の精査・評価レポートが社会貢献 学生は自分事(自らの問題)としてSDGs4.7(貢献の理解)を体験・理解
2.企業の持続可能な成長戦略に必要な基礎知識に関わるキーワードを精査し、活動を評価 キーワード:「ステークホルダー(Stakeholder)」、「理念(ビジョン)」、「環境社会企業投資(ESG)」、「社会的責任(CSR)」、「事業継続(BCP)」	学習教材受講と、公開されたレポートを読むトップ経営者	トップ経営者は、新たなイノベーションや新事業創出のヒントを得る
3.国連決議や国策のキーワードを精査し、企業活動を評価 キーワード:「持続可能な開発目標(SDGs)」、「地域循環共生圏」、「ローカルSDGs」、「地球温暖化防止」、「防災減災対策」、「炭素税」	学習教材受講と、公開されたレポートを読む社員や協力会社	公開された企業の社員や協力会社社員は、モチベーションアップ
4.SDGs 達成を目指した ESG 投資を意識した ESG経営を精査・評価 キーワード:環境(Environment)・社会(Social)・ガバナンス(Governance)要素も考慮した投資	学習教材受講と、レポートを読む投資家や顧客や地域社会 学習教材受講と、レポートを読む学校教員	公開された企業は、さらなる信用と信頼を得る 教員免許状更新講習で受けてみたい講習内容のアンケート(土木学会関西支部)結果では、「土木遺産」8人/30人、「持続可能な開発」教育(ESD)が5人/30人、防災学習が6人/30人、「資源再生」が3人/30人

5. おわりに

2020年1月の長崎大学 CSR/ESG/SDGs 講座では三年生 30名を対象としたコロナ禍直前の教室で授業が開催された。大阪から長崎の地まで五歳の幼子連れの大幸グループ役員がボランティアでサポートに参加した。幼子をあやしながら講座をサポートする母親の姿は、受講した学生らのダイバーシティ「多様性」とインクルージョン「一体性」の羅針盤になった。実践的な CSR 報告書から SDGs 達成を目指した ESG 投資を精査・評価することができれば、CSR/ESG/SDGs などの基礎知識の理解が深まる。さらに、環境報告ガイドライン 2018 年版を指標に 10 項目の環境報告の記載事項を自分事(自らの問題)として捉えられるようになると、就活や研究課題や生きる羅針盤を探す手がかりになる¹⁾。

参考文献

1)環境報告ガイドライン 2018 年版 環境省